

11月	886	622	639	51	0	2,198	935	31	214	223	145	961	4,707
12月	892	718	537	134	7	2,288	899	31	171	192	132	885	4,598
累計	9,788	6,726	7,052	626	27	24,219	9,476	298	1,504	2,288	1,320	8,763	47,868

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/S9 市制 15 周年に中学生が真間川に桜を植えたというが、出典などあるか。

市制 15 周年に桜が植えられたことについては、『真間川百年』（鈴木恒男／著 崙書房 1987）p.165 に「昭和二十六年には市制十五周年を記念して境川の両岸に桜が植えられた。」という記述がある。

また、『水と生きる安全なまちづくり・市川 3』（市川緑の市民フォーラムほか／編 真間川の桜並木を守る市民の会 1997）p.19 の「川のふちに市制十五周年を記念して植えた桜の木が、（中略）」という記述や、『真間川界限 第 1～26 号 昭和 57～60 年』（真間川流域研究会）p.68 の「昭和二十五年、市制十五周年を記念して植えられた桜は、桜土手とも呼ばれ桜の名所としてひろく人々の知るところだった。」などで確認することができる。

「真間川の桜並木を守る市民の会」（<http://www005.upp.so-net.ne.jp/boso/mamagawa.htm> 2019.2.20 確認）の WEB サイトにも、「市川市の市制 15 周年にあたる昭和 24 年、周辺の人々の手によって、八幡と北方の間の境川（真間川）の川べりに記念の桜が植えられました。」と掲載されていたが、いずれにも中学生が植えたという文章はなかった。

千葉県ホームページの葛南土木事務所真間川改修課のページ（<https://www.pref.chiba.lg.jp/c-katsunan/kankyou/seibi.html> 2019.2.20 確認）には、「真間川沿いの桜並木は、昭和 24 年の市川市制 15 周年記念事業の一環として市内の中学生の手によって植えられたと伝えられており、（後略）」と掲載されていた。

652 江戸時代の植栽について、特にクロマツの海岸林について知りたい。

『森林の江戸学Ⅱ』（徳川黎明会徳川林政史研究所／編 東京堂出版 2015）P.23 には、江戸の農学者、宮崎安貞が「農学全書」で屋敷林の育成を推奨したことが江戸時代の屋敷林の植栽・育成に影響があったのではないかという推測や、p.136-150 に海岸林としてクロマツが中心に植えられたという記述がある。

また、クロマツの海岸林としての成立については、『森林大百科事典』（森林総合研究所／編集 朝倉書店 2009）p.142 に「現在広くみられるクロマツの海岸林は江戸時代以降に造成された人工林がほとんど」とあり、『森林・林業百科事典』（日本林業技術協会／編 丸善 2001）p.100 には、飛砂や潮風、濃霧などの被害を防ぐために、藩政時代からクロマツの海岸林の造成と維持、保全に関する事業が進められてきたなどの記述がある。

『森林の江戸学』（徳川黎明会徳川林政史研究所／編 東京堂出版 2012）p.130 の「砂丘での植林法」の章に「十八世紀末頃までには、ほとんどの地域で、まずネムノキやグミを植林し、それらが根付いて少し砂地が安定したところにクロマツが植林された。」とあり、弘前藩と秋田藩の例を取り上げ、海岸砂防林造成の具体的な展開を紹介している。

「海岸林形成の歴史」（太田猛彦／著 『水利科学』No.326 2012）の中に飛砂害が目立ち始めた江戸時代以降に試行錯誤の結果、クロマツ林を成林させた旨の記載がある。これは科学技術振興機構の J-STAGE にて無料公開されており、全文を見ることが可能である。（<https://>

699 「前線へ送る^{ゆうべ}夕」というラジオ番組について知りたい。

『ラジオ・トウキョウ 3』(北山節郎／著 田畑書店 1988) 巻末の関連年表 p.50 の「1943 昭 18 1月7日「前線へ送る夕」放送開始(国内,東亜放送)」との記述により、放送開始年月日等が分かる。

『テレビ史ハンドブック』(伊予田康弘／ほか執筆 自由国民社 1996) p.8「戦時下の放送」の章に「放送(当時はNHKラジオのみ)」とあり、NHKラジオであることが分かる。

また、『戦争と放送』(竹山昭子／著 社会思想社 1994)に詳細な記述がある。p.41「太平洋戦争下の放送で(中略)ニュース以外の番組で高い視聴率を示したのは「前線へ送る夕」であったという。」「ハイケンス作曲の「ハイケンスのセレナーデ」をテーマ音楽として、(中略)毎月九日と二十四日の二回、定期的に終戦直前まで放送された。」とある。

国立国会図書館デジタルコレクションの歴史的音源で「前線へ送る夕」を検索すると、番組で放送された漫才や落語、講談などを聞くことができる。

→TOPICS

他にもこんな質問ありました(クイック・レファレンスから)

分類

質問

⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など

289.1 幕末の幕臣「おおくぼいちぞう」という人物について書かれた本はないか。⇒「おおくぼいちぞう」で検索したところ該当資料がなかったため、インターネットで「幕臣 大久保」で検索したところ「大久保一翁(いちおう)」がヒットした。彼の生涯を知りたいとのことだったので『大久保一翁 最後の幕臣』(松岡英夫／著 中央公論社 1979)『勝海舟を動かした男大久保一翁』(古川愛哲／著 グラフ社 2008)を提供。

686.2 古い駅弁のパッケージについてカラーで見たい。⇒『駅弁掛紙の旅』(泉和夫／著 交通新聞社 2017)『駅弁掛け紙ものがたり』(上杉剛嗣／著 けやき出版 2009)を提供。

TOPICS ハイケンスのセレナーデ

久世光彦の著作『マイ・ラスト・ソング』(文芸春秋 1995)に「ハイケンスのセレナーデ」という章があり、とても美しい木琴のメロディが少年だった著者の心に響いたことなどの回想が描かれています。疎開したどの町で聴いてもしみじみときれいな曲であったことも書かれています。

音楽といえば軍歌が主流であった時代に、このさわやかな「ハイケンスのセレナーデ」の調べは多くの人に安らぎを与えたことでしょう。

作曲者のジョニー・ハイケンスは、1884年にオランダ北部の印刷所の子どもとして生まれます。15歳まで生まれた町で音楽教育を受け、その後ドイツに渡り、ケルン音楽学校でヴァイオリンや作曲を学びます。主にドイツで活躍しており、第二次世界大戦末期にオランダに戻りますが、その経歴により親独派とされ、終戦と同時に連合軍に逮捕されてその翌日に獄中で亡くなりました。

「ハイケンスのセレナーデ」は、国立国会図書館デジタルコレクションの歴史的音源で聞くことができます。

参考資料『標準音楽辞典 新訂第2版』(音楽之友社 2008)

CD『NHK名曲アルバム 3』解説(ユニバーサルミュージック 1999)